

(続紙 1)

京都大学	博士 (経済学)	氏名	GORSHKOV VICTOR ANDREYANOVICH
論文題目	Foreign banking in Russia: Out-in entry and in-out expansion cases and the role of institutional context (ロシアにおける外国銀行－外国銀行の参入とロシアの銀行の海外進出、制度的コンテクストの役割を中心に)		
<p>(論文内容の要旨)</p> <p>本論文は、ロシアに参入している外国銀行に光をあて、進出動機・行動様式・経営戦略を詳細に分析しているが、とくにロシア市場の独自性を考慮して、経済制度が外国銀行の参入に及ぼす影響を考察するとともに、ロシアから海外進出を図っている銀行をも考察対象に加えている。</p> <p>本論文は、外国投資それ自体の動機や組織、ホーム国の条件にのみ光をあてるのではなく、ミクロ・マクロ・制度コンテクストからなるホスト国とホーム国両方の国内環境を想定し、そういった環境が当事者国の銀行部門の特異性と市場の特質とともに、外国銀行の進出動機・形態・戦略に相当の影響を与えていることに注目している。とりわけ、制度的コンテクストと銀行部門の特異性から、外国銀行のロシアへの進出とロシア発の銀行の海外進出が密接に結びついていることを導出し、ロシア資本の国際的な往復行動を考察する点において独自性がある。</p> <p>本論文では、銀行の海外進出、外国銀行の行動様式に関するこれまでの理論を整理し、外国直接投資論、多国籍企業論、多国籍銀行論が新興国・移行国に進出している外国銀行の行動様式を説明するうえで、必要となる条件を考察している。この場合、ホスト国の制度に着目して、外国銀行の行動様式分析にそれを用いているとともに、ロシア銀行部門の市場移行後の動向に関する実証分析を行い、銀行部門の特異性・ロシア市場の独自性を明らかにしている。また、ロシアに進出している外国銀行の実証分析として、100%外国資本の外国銀行の最終的所有者に関する独自の実証分析に取り組み、ロシアに参入している外国銀行の動機付けに基づいて外国銀行を分類している。</p> <p>一方、ホーム国の国内環境が与える影響を評価するために、ヨーロッパと日本からのケーススタディを検討し、ホストとホーム両国の制度が効いているとはいえ、ホスト国の国内環境の影響力が強いことが明らかになる。あわせて、本論文は、ロシアをホーム国として位置づけ、ロシア国内の銀行による海外進出もまた分析しており、ロシア発の外国銀行はロシアに参入する外国銀行と緊密に関係することを実証している。章構成は以下のようになる。</p>			

第1章では、詳細なレビューとともに、研究対象である「外国銀行」概念の位置づけを行い、外国銀行の海外進出に関する既存理論・実証研究に依拠しながら、外国銀行論という本論文の理論的な枠組みを導入する意義を論述している。

第2章はホスト国としてのロシアの銀行部門の特異性と市場の独自性を明らかにしている。ロシアにおける銀行の活動に関する法制度を概括した後、銀行部門のマクロ・制度分析を行い、ロシア銀行部門を国際比較の枠組みの中で位置づけている。

第3章はout-in進出ケースを扱っている。ロシア銀行部門の対内外国投資のマクロ分析を紹介した後、外国銀行の行動様式に焦点を当て、外国銀行の進出動機・形態・戦略を分析し、制度的コンテクストの役割を考察している。動機に関する分析を2段階にわけ、既存実証研究の動機付けの整理と独自に行った100%外国資本の最終的所有者の分析を通じて参入動機の分類を行っている。

第4章はヨーロッパと日本からのout-inケースを紹介し、ホーム国国内環境の影響を考察している。ヨーロッパからの銀行は積極的にロシア市場へ参入し、高いランキングに入っているのに対して日本からの銀行は消極的で、その活動規模も大きくない。日本の銀行には主に顧客追随仮説(follow仮説)が働いており、ヨーロッパの場合は歴史的要因が外国銀行の行動を規定していることが明らかになる。

第5章は、外国銀行論をさらに発展させ、ロシアの銀行のin-out進出ケースを扱っている。ロシア銀行部門の対外投資のマクロ分析を行い、ロシアの銀行の行動様式に焦点を当て、制度的コンテクストの役割を考える。ここでの焦点は単にロシアの制度を確認することにあるのではなく、out-in entryとin-out expansionの間に因果関係が存在していること、オフショアという独自のエリアの存在が外国銀行の参入と進出に不可分であることにある。

終章は各章の主な論点を整理している。本論文で提示した外国銀行論の見方から、既存の理論研究・実証研究への意義を考えている。

(続紙 2)

(論文審査の結果の要旨)

本論文は、主にロシアに参入にしている外国銀行の進出動機・形態・経営戦略を実証的に分析し、制度的コンテクストが及ぼす影響を析出するとともに、それを通じて多国籍銀行研究に貢献しようとする意欲的な研究論文である。本論文の学術的貢献は以下の点において高く評価することができる。

第1に、伝統的に市場経済移行と直接投資はマクロ経済面から分析され、そうでなければケーススタディが列挙されがちであるが、本論文はホスト国の経済制度要因に焦点をあて、制度環境こそが多国籍銀行の新興市場参入に及ぼすもっとも重要な影響要因であるとして、それを詳細に検討している点に研究の独創性がある。外国銀行が参入する際の組織・戦略はこの制度要因に対する適合的行動の結果にほかならず、本実証研究から市場経済移行において経路依存性が強く働くこともあわせて明らかになる。政治的・歴史的要因だけでなく、移行市場の制度特性が、リスクは大きくても先進諸国の銀行にロシア市場への参入を促す強い誘因になるという興味深い結論を導き出している。

第2に、ロシアに進出する100%外国所有の銀行について最終的所有者に光をあてて詳細な実証研究をすることで、投資戦略が欧州・日本で異なること、オフショア圏からの流入が大きいことを明らかにしている点である。こうした実証は世界的にも新規性に富んだ試みであり、ホーム国の制度が影響すること、金融システムの型に違いが存在することを明らかにしている。ことに、オフショア圏の分析は、多くの先行研究で欠落している領域であり、本論文は多国籍銀行研究に新たな視座を提供したとすることができる。

第3に、ロシアに参入する外国銀行だけでなく、ロシア発の外国銀行を析出しており、そのことにより国際金融においてこれまで十分に解明されなかったロシアにおける金融の流れが総体として明らかにされている。新興国発多国籍銀行はきわめて最先端の研究領域であり、まさに本研究はロシア金融機関を考察するうえでパイオニアの役割を果たしている。

一方、本論文には、以下のように今後取り組むべき研究課題が残されている。

第1に、伝統的なプル・プッシュ要因と提起した制度要因の相関関係は必ずしも十分に分析されているわけではない。とくにホーム国あるいはグローバル経済のプッシュ要因が制度とどのように関連するのかが検討すべき課題といえる。グローバル危機が強く影響したロシア市場を念頭に置けば、グローバルなプッシュ要因は本研究課題に不可欠の検討対象となる。第2に、そもそも外国銀行がロシア金融システムにどのような役割を果たすのかもさらに検討を要する。総体として、慢性的に投資を導かない金融システムのなかで、外国銀行の役割は限定的なものとならざるを得

ない。第3に、多国籍銀行と多国籍企業の行動の間の関連性もまた再考される必要がある。企業金融が大きい比重を占めるロシアにおいて、多国籍企業もまた重要な資金供給者の役割を果たしている。

以上のような課題を残しているとはいえ、それらは将来に向けた研究の発展のための方向性を示唆するもので、国際金融論、多国籍企業論の研究そのものの発展にも求められるものであり、本論文が解明した貴重な学術的貢献を何ら損なうものではない。

よって、本論文は博士（経済学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお、平成25年12月26日、論文内容とそれに関連した口頭試問を行った結果合格と認めた。